

広島に行つて感じたこと学んだこと

高麗川小学校 神田 隼汰

僕が広島市平和記念式典児童派遣事業に参加して印象に残ったことは四つあります。

一つ目は、平和記念資料館です。資料館では、八時十五分で止まった時計、ボロボロになつた自転車、れこげになつた弁当箱、当時の写真や絵が展示されていて一つ一つが原爆の恐ろしさを物語っていました。写真や絵は心の底から「助けて」「水をちょうだい」

という声が聞こえた気がして当時の人の苦しみが伝わってきました。あたり前に過ごしていた日常が、たった一発の原子爆弾で奪われてしまったのです。戦争を知らない世代の僕たちは、この現実から目をそらしてはいけな

いんだと思いました。

二つ目は、原爆ドームです。当時は広島県産業奨励館という名称でもにぎやかな場所。地域の人達に親しまれていたそうです。しかし、八月六日の朝、その姿は一変してボ

口ボロになり、原爆ドームと名付けられました。それを地元の高校生が運動を起こし残さ
れることになり、今となっては世界遺産とな
っていることを初めて知りました。

三つ日は、平和記念式典です。式典には、
高市総理大臣などの日本の要人をはじめ、世
界各国からたくさんの方が参加されていまし
た。子供代表の平和への誓いの言葉が非常に
印象に残っています。それは、私たちには、
被爆体験を直接聴くことができる最後の世代

として、当時の記憶を事実として受け止める
使命があります。という言葉です。被爆者
の平均年齢は八十六歳と高齢で、戦争を語れ
る方が少なくなっています。僕たちが戦争や
被爆体験を聞き、しっかりと次の世代に伝え
ていかなければならないと思いました。様々
な方の平和への祈りの言葉から、核は使わな
い、戦争をしないという強い気持ちを感じま
した。そして、平和について、と深く考え
ていきたいと思うきっかけになりました。

四つ目は、こども平和サミットです。被爆者の方の話では、あちこちに遺体が転がっていて、とても悲惨な状態だったそうです。原爆かう生き延びても放射能をおびていた雨で死ぬことがあったこと、爆心地から一・五キロメートル以上離れていても遺体はれこげになつていたと聞き、原爆の破壊力を実感しました。戦争の恐ろしさを語れる方が少なくなっているので話を聞けて良かったです。

夏休み初めに埼玉県平和資料館へ行き、終

戦前夜に熊谷に空襲があったことを初めて知りました。広島では宮島の厳島神社など美しい場所に行くことができたと同時に、悲惨な辛い歴史があったことを実際に見て学ぶことができました。世界各国の要人同士がきちんと話をし、僕たち一人一人が争いのない平和な世界になるよう語り継いでいきます。このような貴重な経験をさせていただき、本当にありがとうございました。